

社会資本総合整備計画（活力創出基盤整備） 事後評価書

平成 28 年 12 月 2 日

計画の名称	2 石川～富山における広域交流活性化計画		
計画の期間	平成23年度～平成27年度（5年間）	交付対象	石川県（富山県と連携）
計画の目標			

温泉や優れた自然景観、歴史・文化施設など、数多くの観光拠点施設を有する石川県と富山県が密接に連携し、平成26年度に金沢まで開業予定の北陸新幹線や北陸自動車道等の交通結節点と観光拠点施設間、または観光拠点施設同士を相互に連絡する広域的な周遊観光ルートを整備することにより、観光交流人口増大させ、地域振興を図る。
また、両県が連携して、より広域的な観光PRを実施することで、広報活動の効率化を図る。

計画の成果目標（定量的指標）	
【石川県・富山県 共通目標】	観光客数の増加率

定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値			備考						
	当初現況値	中間目標値	最終目標値							
①【富山県・石川県 共通目標】観光客数 (観光客の増加割合) = (評価時点の観光客数 - H20の年間観光客数) / (H20年間観光客数)	(H21)	(H24末)	(H26末)							
	0%	7%	15%							
②【石川県 目標】高速ネットワーク確保率 (高速ネットワーク確保率) = 評価時点の整備済路線延長 / 「ダブルラダー結いの道」整備構想指定路線延長	(H20)	(H24末)	(H26末)							
	77%	81% (4ポイント増)	84% (7ポイント増)							
全体事業費	合計 (A+B+C)	12,139百万円	A	11,676百万円	B	百万円	C	463百万円	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C)	3.8%

事後評価

○事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
石川県において評価を実施	事業完了後 公表の方法 石川県ホームページで公開

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	<ul style="list-style-type: none"> ・(国) 249号 大谷道路の整備が完了し、幅員狭小、急勾配、急カーブといった交通のネック区間が解消され、観光客の周遊性が高まり、その結果、珠洲市内の全ての「道の駅」で利用客が大幅に増えている。 ・(主) 金沢井波線の整備が完了し、狭隘区間が解消され、石川と富山を結ぶ新たなルートが確立され、両県の観光客増加に大きく寄与した。 				
II 定量的指標の達成状況	指標①（観光客数）	最終目標値	15%	目標値と実績値に差が出た要因	行楽シーズンの天候不順や高速道路料金割引の終了・縮小、貸切バスの運賃制度改定等により、平成26年度の観光客数増加率は1.9%に留まり、目標値に届かなかった。 （しかし、平成27年春に能越自動車道（七尾氷見道路）、北陸新幹線が開通したため、観光客数増加率は17.9%となり、目標値の15%を達成している。）
		最終実績値	1.9% (H27 17.9%増)		
	指標②（高速ネットワーク確保率）	最終目標値	84%	目標値と実績値に差が出た要因	
		最終実績値	82.8% (H27 83.3%)		
III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況 (必要に応じて記述)	<ul style="list-style-type: none"> ・(主) 金沢井波線の整備により、金沢市と南砺市を最短で結ぶルートが確立されたことから、新たなバスルートの運行が開始された。 				

3. 特記事項（今後の方針等）

平成27年2月の能越自動車道（七尾氷見道路）の開通や平成27年3月の北陸新幹線金沢開業など、石川県では新たな高速交通ネットワークの整備が進展することから、その効果を県内全域へ最大限波及させるためにも、道路整備を進め、観光誘客につなげ、地域の活性化を図る。
石川・富山の両県には多くの歴史的遺産や豊かな自然景観を活かした観光施設が多数存在していることから、これらの観光施設までのアクセス道路を整備による、移動時間を短縮を図り、更なる観光誘客につなげることにしている。